

## 滋賀県立高等学校再編計画(原案)説明会 意見概要 < 東近江会場 >

日 時 平成23年(2011年)8月6日(土) 10:00~12:15  
場 所 湖東信用金庫本店 会議室(参加者32名:発言9名)  
主 な 内 容 同趣旨のご意見については集約して取りまとめました。

生徒数は、これから10年は変わらない。なぜ今再編をするのか。

学級規模について、6学級が本当にふさわしいのか。自分を創っていく時期に、たくさん人がいればいいわけではない。教師がすべての子どもたちに目を行き届かせることを考えれば、4学級もありではないか。

「小規模校は、地域の活力の低下につながる。小規模校には投入しても無駄。」ととれた。

社会の現状としては、親の貧困が問題。県には教育にもっとお金を使ってもらいたい。

定時制の通う生徒のほとんどが、40人の教室には入りにくい生徒ばかり。少人数なら何とか教室に入れる生徒なので、不登校の子はなかなか学校に定着しないと考える。通信制課程を併設すれば緩和されるのではないか。

能登川高校には、給食室を作ることになり、お金を使うことになる。夜間の定時制を新たに作って、わざわざお金をかけるのなら、彦根東高校を残すほうが良い。北部定時制すべてを残さないのは問題。働きながら学ぶ子が通えなくなる。特に JR 沿線で残して欲しい。

小規模、夜間定時制の担ってきた役割は、意味がある。教育環境を充実させることは、学び直しや外国籍の子どもたちに対応することが大事。

不登校や、授業に出られない生徒の中には、定時制で丁寧に教えてもらって何とか卒業していく。そのようなチャンスが減ってしまうのではないか。

米原から北に定時制がなくなることは、生徒に学習を保障していない。

定時制は、3校で93名。80人程度いる。本当に80人で収まるのか。望む・望まないにかかわらず、今、定時制に生徒がいることを知っていただきたい。

通学費について、「奨学金を活用すればよい」との回答があったが、家庭の状況が分かっていない。学校納入金は、全日制で20万円、定時制で10万円程度。奨学金の返済はその子にのしかかっていく。

生徒に講座を選択させるのは大変。講座の選択を高校生が主体的にできるのか疑問。単位制は、人との出会いから逃げていく形になってしまう。

併修については、教える側からすると大変。顔を知らない生徒が来る。「学びあい」の効果が上がらないと心配する。

能登川高校で、大学のように自由に受講することになれば、抜けている時間帯に生徒はどうするのか。能登川高校をすべてそうすることには疑問がある。

能登川高校には3課程あり、制服、髪型、通学方法など、どのような形になるのか。

夜間定時制は、分かりやすい授業をしている。併修については、どこの生徒にターゲットを絞ったものか。生徒のレベル次第では必要のない内容となる。そのような生徒にも、併修によって、基本レベルを受講した際に、簡単に単位を出すのか。

3年間での卒業が可能な併修を魅力としているが、通信制ではすでに3年間での卒業は可能となっている。

能登川高校の改編について、県がこうしなさいと言っているなら、失敗率が高い。これだけ幅広いと、県の担当者も分散して対応が行き渡らないのではないか。

定時制は、全日制と変わらない特別活動が必要。大津清陵高校昼間部において、クラブ活動、行事がかなり制限されている。文化祭の準備にも十分な時間があげられない。能登川で

考えている高校では、どこで特別活動を行うことが可能なのか分からない。部活動等の制限もかかってくる。

湖東、湖北地域で単位制の必要性は理解するが、全日制と定時制を併設するのは無理。それぞれ独立させれば、特別活動も可能。

石部高校の総合選択制が総括されていない中で、どのように考えているのか。

大阪府にある多部制高校は、6校が2校になる。午後からの定時制は(午前からに比べて)評判が悪い。どうして午後の定時制を持ってくるのか。他府県の事例を検証したか。

「情報」が付けば、生徒が集まっていた時期もあったが、今回は学科名に付いていない。その総括をしたのか。

建築等の職業学科の必要性を感じる。

瀬田高校の2学級80名定員を瀬田工業の定時制で40人としており、定員が減る。年度によっては80人を超える人数がいたが、それを1学級にすると困るのではないか。

まちづくりは、「黒壁」だけでなく、広く対象にしたほうがよい。

長浜養護学校の分教室は、知的軽度の子が対象だと思うが、伊吹には通えない。その子どもたちと本校に通う子どもたちとの交流、行事の組み方は可能なのか。

発達障害のある子どもは、学校の授業についていけない、クラスの子どもたちに適応できない子どもたち。高校での教育がうまくいくと、うまく就職していける。少人数の学級が適している。農業などの実習の学校に適応しやすい。その観点から適した高校が減ってしまうと考える。

学校の先生、特別支援の先生の意見は入っているのか。そのような方々の意見を聞いて計画すべき。

説明会について、今回は希望制となったが、十分周知されたのか。

滋賀県の教育行政について「もったいない」が来るとは思わなかった。定時制でも、選択肢がなくなることになる。地元で行きたい学校をなくすことになっている。全県一区にしたときと今回は違う。どこにでも行けるようにしたこととは違う。

「地域の視点、子供の視点で考える」と知事は言っているが、そうっていない。